

EU Indicators

発表日：2019年7月4日(木)

欧州経済指標コメント：6月英国PMI

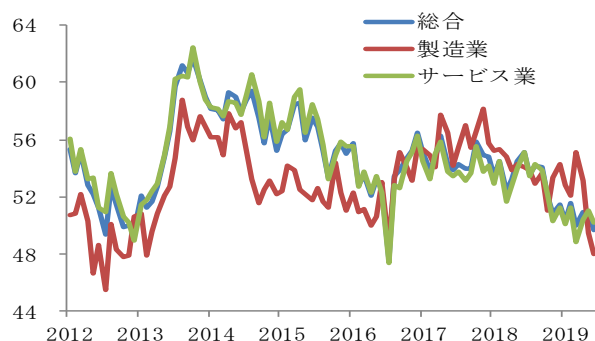
～国民投票以来の50割れ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

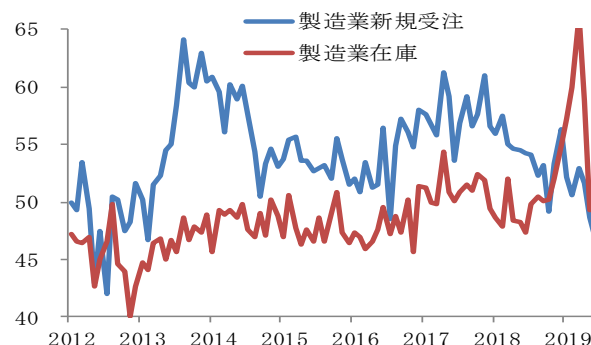
- 6月の英国の総合PMIは前月から0.8ポイント低下の49.7と、EU離脱を選択した2016年の国民投票直後以来となる50割れを記録した。既報の製造業PMIが48.0と前月から悪化モメンタムが加速し、2ヶ月連続の50割れ。建設業が43.1と2009年の世界的な金融危機時以来の水準に低下。サービス業も50割れ目前の水準に低下、今年に入って50前後での緩慢な推移が続いている。
- 製造業PMIの構成項目では、3月末の離脱期限（当時）を前にした在庫積み増しや一部自動車会社の工場操業停止の影響が剥落した後、改めて新規受注や生産が冷え込んでいることが確認。貿易戦争の脅威や合意なき離脱への不安の高まりが、製造業の業況悪化につながっている模様。
- サービス業では、先行きの活動判断が改善した一方で、現状の活動判断や新規受注判断が低迷。建設業も同様の動きながら、現状判断の悪化幅がより鮮明。今月はサービス業の雇用判断の改善が際立っているが、これは労働需給の逼迫感がやや和らぎ、これまで難しかった採用が可能になったことを反映した面もある模様。
- 1-3月期のGDPは離脱期限前の在庫積み増しなどを反映し、前期比+0.5%と成長が加速。4-6月期は反動減が予想され、今月のPMIの弱さからは景気の基調的な弱さも確認。10月末の次の離脱期限に向け、新たな在庫積み増しの動きも予想されるが、景気の減速感が強まっている。BOEのカーニー総裁も2日、貿易戦争の脅威や合意なき離脱のリスクが高まっており、景気減速に対応するため、若干の政策対応が必要になる可能性を指摘。利下げ観測も浮上している。

■英国：PMI 総合



出所：IHS Markit

■英国：製造業PMIの受注・在庫



出所：IHS Markit

■英国のPMI指数（季節調整済み）

		2018				2019											
		3Q	4Q	1Q	2Q	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
英国	総合PMI	53.9	51.4	50.6	50.5	54.1	52.1	50.8	51.4	50.3	51.5	50.0	50.9	50.9	49.7		
	製造業PMI指数	53.5	52.9	53.3	50.2	53.7	51.1	53.3	54.3	52.8	52.1	55.1	53.1	49.4	48.0		
	サービス業PMI指数	53.9	51.3	50.1	50.5	53.9	52.2	50.4	51.2	50.1	51.3	48.9	50.4	51.0	50.2		
	建設業PMI	53.6	53.1	50.0	47.4	52.1	53.2	53.4	52.8	50.6	49.5	49.7	50.5	48.6	43.1		

出所：IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。